

「見る・読む・考える」新聞記事

～新聞に親しみ、世の中をさまざまな角度から見てみよう～

姫路市立菅野中学校 校長 中濱 久喜
教諭 高井 浩子

1. 実践の概要と新聞の置き場所

本校3年生は102人、3クラス+特別支援学級1クラスである。夕刊配達のない地域で、2学期に6紙の日刊紙が届いた。教室前のホール(学年集会もできる広さの通路を兼ねた場所)に置き、自由に閲覧できるようにした。また、総合的な学習や社会科の時間を使って、NIE実践を行った。



2. 実践の内容

① 新聞で何ができるか ナイスショット

NIE授業の初めは、「新聞を使って、何ができるだろう」という問いから始まった。「世の中を知ることができる」という本来の使い方以外に、「雨で靴がぬれたとき、乾かすのに古新聞を丸めて使う」「チャンバラ」「そうじ」などの意見が出た。いわば新聞「目的外使用」である。目的外でも新聞の使用法がたくさんあるということは、それだけ新聞が身近な存在ということではないか。中身についても、見るポイントや切り口を変えると、国語的、理科的…と、さまざまな読み方ができる。最

初は「美術的」。それは、新聞に掲載されている写真から「ナイスショット」を発見する見方だ。広告以外の写真を探し、B6判サイズの用紙に「どういう写真か」「どこがナイスか」をまとめさせた。

② 記事比較とマイナーニュース大会

9月初めのビッグニュースは、錦織圭選手の全米オープンにおける大活躍だった。1面トップの準優勝を伝える記事を黒板に並べて掲示し、見出しの文字を読み上げた。

問①「錦織選手が帰国して新聞を見たときに、うれしいと思う新聞はどれだろう」

問②「決勝戦はストレート負け…その事実が伝わりやすい新聞はどれだろう」

この二つの質問をすることで、「印象」「感情」だけにとらわれず、「内容」「理性」が大切であることを分かせたかった。



ちょうど、朝日新聞社の「読者のみなさまへのおわび」プリントがあったので併せて紹介し、どの新聞についても記事をうのみにせず、メディアリテラシーの視点を持つことの大切

さを話した。

1面トップ、錦織選手の記事は「ビッグニュース」であり、新聞を手にしたら誰もが見る・読む内容である。しかし、紙面の隅っこで小さな面積しか占めないが…という「マイナーニュース」の数は多い。これはインターネットのニュースとは大きく違うところである。記事比較をした後、「マイナーニュース」を探させて、その内容やなぜ1面トップにならないかを考えさせた。

多くの人が関心を寄せないかもしれない小さな記事である。しかし、それぞれの記者が日本各地・世界各地で取材して、「これを伝えたい」という思いが詰まっているのではないだろうか。

③ この人を見よ

新聞には、人物やその業績を紹介する記事がある。生徒が知っているスポーツ選手やタレントなどの有名人の記事は読むだろうが、知らない人の記事は読まない。そこで、「自分にとっては有名ではない人のことが書いてある記事を探して紹介する」。人物の紹介なので、「この人を見よ」である。「この人」から自分が学ぶことについてもまとめさせた。

④ 五七五・五七五七七～新聞で文芸～

国語で俳句や短歌の勉強をする。新聞にも週1回は投稿俳句・短歌が掲載される。国語の学習とリンクさせて、文芸欄に注目させた。選者の解説が載っていない1句(1首)を選び、自分なりの解説を書く。そして、自らも1句(1首)作る。

平凡な日常を歌った句、社会を鋭く批判する歌…最小限の文字数に込められた思いを読み取らせた。

⑤ 新聞記事を比較しよう

同じ日付の新聞を2紙ずつセットにする。

1人に1セットずつを持って、「同じ内容について書いてある記事」をそれぞれの新聞から探して比較させた。このころになると、記事を探すのも上手になってきている。同じ内容の記事を見つけると、うれしそうにしていた。

記事が大きい場合は、「見出し」「写真」「グラフ」など比較に必要なところを取り出してプリントに貼る。この実践はB4判の用紙を使った。



比較のポイントは「見出しの言葉」「パッと見の印象」「記事の読みやすさ」「内容の分かりやすさ」「記事の詳しさ」「写真・グラフなど」「その他」。比較しての感想を書いた上で、「この記事については〇〇新聞の方が良い」と総合判定させた。

⑥ 新聞記者のお話を聞こう

産経新聞記者・上阪正人記者から「言葉と文章で伝える仕事」というテーマでお話を伺うことになった。上阪記者は事前に学校まで来てくださり、講演の内容や進行について打ち合わせをすることができた。生徒に「質問したいこと」を調査していた講演が延期になってしまったのだ。衆議院の解散が濃厚となり、総選挙の取材のためである。しかし、解散の前から記者の選挙取材は始まるという仕事の

実態を知らせるにはかえって好都合だった。

上阪記者には総選挙後の12月16日に講演をしていただいた。講演後、進んで質問をしに行く生徒もいた。



◇感想◇ 以前から新聞はどのような人が書いているのかが気になっていました。上阪さんからは、地域によって新聞の内容が異なっていることなどを教えていただきました。ここで質問ですが、どのようにすれば新聞記者になれるのですか。

◇感想◇ NIEやこの授業をするまではあまり新聞に興味がなかったけど、今日の授業で新聞のいろいろなことを知り、少し興味を持ちました。新聞発行は1日1回だと思っていたけど、何回も発行していると知ってびっくりしました。新聞にも原稿の提出時間があることを知って、大変そうだなと思いました。これからもっと新聞を読んでいきたいです。

感想文をまとめて上阪記者に送ったところ、「質問()の部分」への回答が届いた。

◆回答◆ 新聞記者志望者は、各社が毎年春ごろに行う新聞社の試験を受けて、採用されることを目指します。新聞社の職種もいろいろある中で、「記者職志望」を明確にして受験しなければなりません。筆記試験(論文も含む)と複数回の面接を経て、採用される人が決まります。年齢など条件もありますが、比較

的他の業界の企業よりも年齢の幅などが緩やかになっているようです。春の大学新卒採用だけでなく、秋などに経験者採用を行うこともあります。

他にも多くの質問に答えてくださり、質問をした生徒たちはとても喜んでいました。

⑦ 意見に意見す

12月、6紙が届く中で最終の実践となったのが、「意見に意見す」である。

投書・論説・社説・コラムを探し、内容をまとめて、{賛成・反対}と自分の意見を書く。数年前に実施したときには、意見の記事を探すことに時間がかかった。そこで今回は、なかなか探せない生徒、探せても内容の理解が難しい場合、幾つかの記事を提示することで支援をした。小・中学生からの意見投稿は比較的身近な問題が多く、自分の意見をまとめることができた。

「残った給食を持ち帰っては」という小学生の意見を取り上げている生徒がいた。本校はセンター方式の全員給食を行っている。「完食」する日もあるが、ほとんどの日は「残飯(特に野菜類)」を目撃することになる。この問題については、全員で考えることにした。持ち帰りに賛成の生徒も約3割いたが、安全性や責任問題を取り上げて反対したり、賛否両論を書いたりする生徒も多かった。

⑥⑦の内容は学年通信にも掲載し、学年全体に伝えた。

⑧ 日々の取り組み・・・新聞に触れよう

新聞購読家庭は約65%だが、NIE開始時点では新聞をほとんど(全く)読まない生徒が約55%という実態だったため、新聞に毎日

触れさせる時間を設定した。9月はスポーツ・芸能以外で「これ！」と思う記事を探し、内容を11字以上15字以内でまとめる。9月7日に各クラスで手順を説明し、翌8日より毎



日行った。

テーマは、だんだんとレベルアップしていくようにし、10月は「ナイスショット」「マイナーニュース」「ワールドニュース」「ローカルニュース」という4テーマの日替わりである。12月は「見出し読み出し（見出しを読みやすい文章に）」「総理当番（首相の1日）」「私のみエコノミー（経済記事）」「政治ユニア（政治・選挙）」「姉さん、事件です（事件・事故）」の5テーマ日替わりで、生徒も5チームに分けて、テーマをローテーションさせた。

最初は記事が見つけれなかったり、書き方が分からなかったりして出せない生徒、ずぼらで出さない生徒がクラスに3～4人いたこともあった。しかし、やり方を個別で説明したり、社会係が厳しく（！？）請求したりする中で、全員が提出できるようになった。

3. 実践の感想と今後の課題

① 生徒の感想から

・新聞はテレビのニュースと違って何度も読み返すことができ、内容を深く理解できる。新聞をこれからも読んで、政治や世の中につ

いて詳しくなれたらと思う。

・前まではあまり新聞を読まなかったけど、NIEをやる度に面白みを感じました。テレビは言うだけだけど、新聞は文字なので、勉強にも役立つ。文章力も自然につくので、簡単な勉強法だと思います。

・初めて見たときは、どこに何が書いてあるか分からなくて、「何これ!？」ってなったけど、「〇面」などジャンルに分かれていることを知って、意外と見やすいことが分かりました。姫路の地域ニュースも載っていて、すごいと思いました。

・新聞を毎朝読んでいたけど、マイナーニュースなどが書いてあることは知らなかった。新聞は読めば読むほどいいことがあると思う。読めば読むほど面白さがあると思う。

・世の中は毎日大きな動きがある。その動きを正しく、詳しく知ることができる大切な情報源だと思う。

・読めば学力が上がると知って読もうと思うけど、字がいっぱいあり過ぎて途中でやめてしまう。もっと読みやすくなればいいと思う。

② 今後の課題

今年度の実践では、「毎日、新聞記事に触れる時間を持たせる」「難易度を少しずつ上げて、記事を深く読ませる」という2段階で取り組んだ。課題提示の仕方やテーマについても工夫をすることで、興味を起こさせたことで、それまでは新聞をほとんど読まなかった生徒も、それほどの苦痛を感じずに新聞記事と向き合うことができた。記者派遣事業では事前の打ち合わせをし、その後も交流を続けることの大切さを実感した。

学年内にとどまらず、さらに学校全体でNIE実践に取り組めるようにしていきたい。